

在日外国人の相談窓口

堺市 対策本部 AMDA に支援要請

大阪府堺市の病原性大腸菌「O(オー)157」集

リピンなど国籍は六十カ国にのぼる。

センターによると、「どうすればO157を予防できるか」「腹痛や下痢の症状があるが、O157に感染したのではないか」といった外国人からの相談が増えているという。

今回の食中毒で堺市内の病院から、中国人の患者が出たため、中国語通訳の要請があったが、市はすぐに対応できなかった。「患者に在日外国人がどれだけいるのか分からない」(対策本部)のが現状という。

同センターはこれまで日本語が話せない在日外国人の医療相談を電話で受け付け、外国語の通じる病院や医師を紹介してきた。同

同センター所長の小林幸医師は「われわれ民間のボランティアと行政の協力体制を築き上げることができれば」と話している。AMDAへの相談は06・636・2333。

展開するNGO「AMDA」(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)に支援を求めることを決めた。

堺市内に住む在日外国人は一万四百八十一人。韓国

説明や予防策を、英語、中国語、ハンゲルなど五カ国語に翻訳した冊子にま

と、中国、ブラジル、フィ

朝鮮人が六三・五%を占め、保健所や医療機関に常

語に翻訳した冊子にま

と、保健所や医療機関に常

と、保健所や医療機関に常